

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 生理学研究室)

TEL : 054-264-5532

HP : http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/

E-mail : souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻・環境科学専攻(旧:大学院食品栄養科学専攻)の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,100名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

創星会会长 林 久由



本年より会長を務めることになりました、一期生の林久由です。よろしくお願いします。

食品栄養科学部は1987年の創立以来、約1600名以上の卒業生、大学院は約400名の修了生を送り出してきました。昨年度は創立30周年を迎えるのと同時に、環境生命学科の第1期生が、卒業し、新たに創星会会員に加わりました。これまで、すでに、会社では管理職となり、重要な役割を担っていました。また、大学では教授となり各研究分野で活躍したりと、確固たる地位を築いたる年代から、一方で、社会人として歩みだしたばかりで、これから将来を切り開いて行こうという年代まで、実に幅広い年代層の卒業生が全国で活躍しています。

さて、これまで創星会では、総会の開催、会報誌等を介して、会員の相互の交流を図ってきました。しかし、ここ数年、総会参加者は減少しており、創星会の主な目的である、会員相互の交流が十分に図れていないという現状です。このため、創星会では、新たな2つの試みを考えました。まず、一つ目は、毎年、秋に行われる剣祭の当日に、食品栄養科学部ホームカミングデーを開催し、在校生を含め創星会会員との交流を図るというものです。卒業生の方々には、この機会を利用し、母校で懐かしい同窓生や恩師との旧交を温めていただければと思います。そして、二つ目は、会員同士の交流会を支援するというものです。これら2つの事項の詳細は創星会のHP上に掲載する予定です。ぜひとも、会員の皆さんには、同窓会活動を通して多くのつながりを持ち、人生の1つの糧としていただければと願っております。今後とも、どうぞ創星会に、より一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

創星会総会のご案内

第12回創星会（ホームカミングデー）を開催いたします。

今回は大学祭（第32回剣祭）1日目に学内に創星会ブースを設置し、社会で活躍する卒業生・修了生をお招きして、卒業生同士や在学生との交流を気軽に楽しめるように企画致しました。

久しぶりに母校を訪ね、剣祭も楽しみながら当時を振り返ってみてはいかがでしょうか。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

なお、参加費は無料です。また、事前申込みは不要ですので、当日直接ブースにお越しください。

【日 時】平成30年10月27日(土) 13:00~

【場 所】食品栄養科学部棟3F 5314教室、5319教室

詳細は同封のご案内をご覧ください。



退職された教員の近況報告

熊谷 裕通(元臨床栄養学研究室)

昨年度末をもって、食品栄養科学部を退職し、4月から藤枝市と島田市の診療所で非常勤医師として勤務しております。

県立大学では、臨床栄養学研究室にちょうど25年間在籍し、教職員の皆さまや100名余の卒業生・修了生と楽しく仕事ができることを深く感謝しております。現在は、透析患者さんや、慢性腎臓病、糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患の患者さんの外来診療、来院できない在宅高齢患者さんや特別養護老人ホームへの訪問診療など、地域医療に専念しております。これまでの県立大学での経験を診療に反映できないかと考えてはみたのですが、短時間の診察時間の中では、問診、診察、検査

指示、薬の処方などに時間を取られ、食事栄養指導や生活指導まで行う時間が十分に取れないのが実際のところです。そこで、助っ人として管理栄養士さんに診察に同席してもらい、栄養指導が必要な患者さんには、診察後にすぐに隣の部屋で栄養指導を行えるようにしました（管理栄養士を重用しなければいけない立場ですし（笑））。栄養指導の効果を判定するのはなかなか難しいものだと感じているこの頃ですが、将来できればこのような試みを、見える成果としてまとめていければと考えています。大学では、学生を中心とした若い人を相手にすることが多かったので、自分を年寄りに感じていましたが、現在の患者さんは70歳代から80歳代が中心で、自分はまだまだひょっ子という感じです。末筆ながら、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしております。



スタッフと共に

トピックス

2年連続管理栄養士国家試験100%合格

平成29年度食品栄養科学部栄養生命科学科卒業生27名全員が平成30年3月に実施された第32回管理栄養士国家試験に合格しました。

昨年度は、国家試験の実施日が3月上旬に早まったため、1月末に行われた卒論発表後は、国家試験対策で慌ただしく日々が過ぎ去っていました。一方で、国家試験の後は、卒業生の多くが卒業旅行（これまで国家試験が3月中旬以降だったため、国家試験の前にコソコソ行っていた）を満喫してから卒業式を迎えるなど、学生らしい楽しい時間が過ごせたようでとても微笑ましく思いました。

新社会人となった皆さんには、これから大学で学んだ知識を生かし、それぞれの分野で“地域から世界まで”広く活躍してくれる管理栄養士に成長することを期待しています。

(臨床栄養学研究室 助教 吉田卓矢)



卒業生便り

【第5期卒業生】佐藤(旧姓:大内)美紀さん(栄養学科卒、大学院博士前期課程修了) 東都医療大学管理栄養学部助教

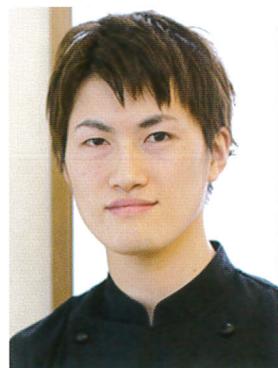
創星会会員の皆様にはますます健勝のこととお慶び申し上げます。私が大学に入学したのは1991年、それから20年以上がたち、まさか自分の子供が県立大学に入学するとは思ってもみませんでした。学科の違いと時の流れもあり、今の授業はそんな感じなのね、と思いながら子供の話を聞き、自分の学生時代と比べて楽しんでいます。そして坂の上に建つ赤レンガの校舎と緑多い環境は、今も変わらず絵画のようにとても素敵なままであります。しかし、自分の母校という目線ではなく、保護者という目線で見直すと、首都圏や近郊の大学と比べ、施設・設備の老朽化が目につきます。

貴重な10代～20代の濃密な時間を過ごす場所は、睡眠時間より長く過ごす場所だからこそ、勉学環境はもちろん、生活環境も過ごしやすい場所を選ばせたいものです。ですが、勉学に没頭できる環境と先生方の授業内容の面白さは、相変わらず素晴らしい大学だと感じています。

食品・栄養そして環境について、面白いと思える人、のめりこんで学びたい人、今までと変わった視点を持ちたい人には向いている大学だと思いますので、皆様のお子様の大学選択の一枝として、ご検討・ご見学されてはいかがでしょうか。私はこの春から管理栄養士養成校の教員となり、母校の先生方や多方面の管理栄養士の方々にお世話になりつつ、なんとか働いていますが、この年になると、人のご縁、人との輪(和)をとても大切に感じます。この大学が、学生にとって人との輪をつくる居心地よい場所であり続けるよう、一卒業生として、そして一保護者としてこれからも期待し、見守り、支援し続けたいと思います。



【第19期卒業生】永田智広さん(食品学科卒)洋菓子店「パティスリー アランマリー」経営



スイーツ男子からパティシエへ

私は小さいころからお菓子作りや料理に興味があり、いつかパティシエになって自分の洋菓子店を開きたいと夢見ていました。この夢を実現させるために、食と栄養について深く学ぶ必要があると考え、静岡県立大学の食品栄養科学部・食品学科の門を叩きました。在学中は勉学に励む傍ら、洋菓子作りをはじめとした調理の勉強・訓練を独自に行うとともに、調理師免許の取得にも取り組みました。卒業研究では、調理科学研究室に所属し貝沼やす子先生の下で小麦粉の揚げ調理に関する研究に携わり、科学的に調理を捉える力を養いました。卒業後、フランスでの留学などを経て、2014年、念願だった洋菓子店を地元の茨城県内にオープンさせました。オープンから5年目を迎え、新商品の開発にも力を入れており、忙しくも充実した日々を送っております。これもひとえに、大学時代にお世話になった恩師の教えや、今も変わらぬ同期達の温かい支えがあっての事だと感じております。

これからも、更に上質なスイーツと幸せなひと時を提供できるよう、日々精進していく次第です。お近くにお越しの際は、ぜひ当店にお越しください。



新商品: 緑茶とおからの
シフォンケーキ「草薙」

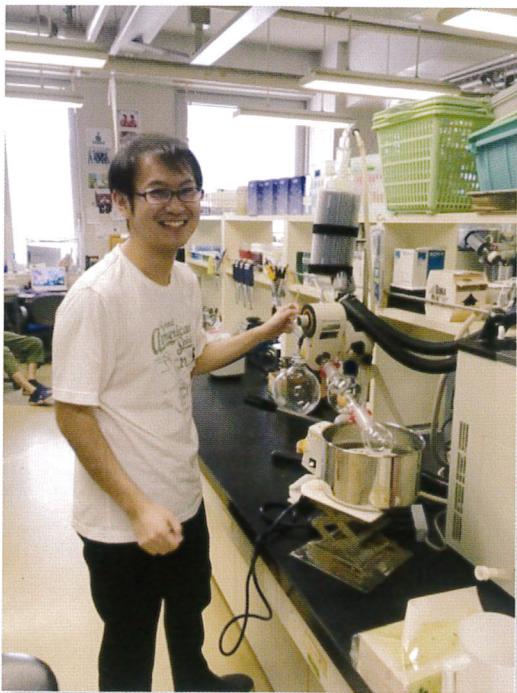
店舗情報

住 所 : 〒305-0035
茨城県つくば市松代1丁目21-17
TEL : 029-851-5022
営業時間 : 9:00～19:00
定 休 日 : 毎週水曜日

甘さ控えめ老若男女に人気のケーキ

在校生便り

【大学院博士前期課程1年】宮田 棕さん(第28期 食品生命科学科卒業)



私は本年度より本学大学院に進学し、食品分析化学研究室にて「タンパク質との相互作用に基づく天然生理活性物質の機能解析」というテーマで研究を行っています。学部4年次に取り組んだ卒業研究では、自分の知識不足であったり、不慣れな実験操作から、中々良いデータを得ることができませんでしたが、そんな中でも指導教員の熊澤先生は、長い目で研究を見守って下さり、先生の熱心なご指導ご鞭撻もあって、自分が想像していた以上の成果をあげることができたと感じております。本学の先生方は、学生に自主性を求める、自分で考え行動することを尊重して下さいます。そういう環境もあり、私は学部時代の4年間を通して、人として大きく成長することができたと強く感じております。私には、歳が4つ離れた妹がいます。妹が進路の決定に迷っている際に、私は自分の経験から、本学への入学を勧めました。妹も食や人の健康に興味があったこともあり、本学を受験することを決め、本年度の4月より本学で日々学んでいます。本学は、食や人の健康に関して、最先端の研究ができると私は感じています。また本学では、知識や技術を身に付けるだけでなく、人としても大きく成長できるため、本学で学ぶ学生がますます増えることを願っています。

募集します

今回の会報誌では、卒業生便りに洋菓子店を経営されている永田智広さんをご紹介いたしました。

会員の皆様で、お店を自ら経営している方がおられましたら会報誌でご紹介いたします。

宣伝広告も掲載いたしますのでご連絡ください。

また、職場での様子や開発された商品、著作紹介など、何でも結構です。卒業生・修了生並びに教員の先生方はもちろん在校生からの活動報告も待っていますので、奮ってご応募ください。

掲載をご希望の方は、 E-mailアドレス:souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

までご連絡ください。

就職情報、学内情報、講演会情報等のお知らせについて

創星会では会報誌の他に、メーリングリストにて創星会通信をお届けしております。

内容は就職情報、学内情報、講演会情報等です。有用な情報を発信しておりますので、是非ご登録下さい。

メーリングリストには、創星会HPのトップページの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。

(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)



【住所等変更登録について】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、メーリングリストのご登録同様、創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除(souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)を行ってからご登録の変更をお願いします。

昇進された教員の紹介

谷 幸則 (教授:環境微生物学研究室)



平成29年10月1日付にて、環境生命科学科・環境微生物学研究室の教授を拝命いたしました。一口に微生物といつても、ヒトの健康に役立つものから、病原性を有するものまで膨大な種類が存在しています。

私は、静岡県で重要な水域である浜名湖や佐鳴湖の水質と微生物の関連性、牧の原台地を中心とした茶園を集水域とする河川微生物の研究、静岡の水域から単離した土着微生物による環境浄化（水質や土壤の浄化）等の研究をおこなっています。皆様もご存じのように、最近では様々な水域で生態系の異変が生じています。静岡県の浜名湖でも、春から夏にかけての風物詩である潮干狩りがアサリ資源の激減によって数年間中止になっており、今でもはっきりとした原因がわかつております。このような水圏の生態系の異変について、環境微生物の観点から原因究明を進めていきたいと考えています。学部教育においては、3学科共通「化学実験」、環境生命科学科と食品生命科学科共通「分析化学」とともに、環境生命科学科「フィールドワーク」を担当させていただいております。講義や実習、研究室での研究を通じて、学生が環境・食糧問題を解決できる能力を引き出していくことを考えております。今後ともよろしくお願ひいたします。

増田 修一 (教授:食品衛生学研究室)



この度、平成29年10月1日をもちまして、食品衛生学研究室の教授に拝命されました増田修一です。平成13年4月に前学長、現静岡県教育長である木苗直秀先生の助教として、食品衛生学研究室に着任して17年が過ぎました。その間、木苗先生、下位香代子先生、島村裕子先生、大石里夏様、在籍してくれた学生や研究室員に支えられ、また、学生時代にお世話になった江崎幸子先生の励ましにより現在の職に就任することができました。これまでお世話になった皆様に感謝致します。今後は、本学部の第一期生として、後輩達のため、また、卒業していく大学院修了生及び学部卒業生のために、大学院、学部が益々発展するように尽力したいと思います。静岡県立大学の近くに来られた際は、是非、研究室にお立ち寄り下さい。今後も皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

新井 英一 (教授:臨床栄養管理学研究室)



平成30年4月1日付けで臨床栄養管理学研究室の教授職を拝命いたしました新井英一です。静岡県立大学准教授として着任して11年の歳月が流れました。当時、様々なことを教えて下さった多くの先生方も大学を離れ、諸先生方の意志を引き継ぐ1人として、身が引き締まる思いです。当分野は臨床を中心に現場で活躍できる人材育成ならびに役立つ研究を核として、また人間栄養学の源流を静岡から発信すべく、ヒトを対象とした研究に勤しんでいます。食品成分の機能評価や代謝応答の把握の最終ゴールはヒトへの応用です。本学がヒト研究の拠点になることを目指し、社会からのニーズに応え続けていきます。さらに、多くの卒業生たちが集うプラットフォームとして、研究室、学部を整備していくことを考えています。魅力ある大学、学部・大学院の発展に邁進して参りたいと思いますので、引き続き、ご支援いただけますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

市川 陽子 (教授:フードマネジメント研究室)



2018年4月1日付けでフードマネジメント研究室の教授を拝命しました。2005年に本学に着任して以降、食の外部化が進む中で健康長寿社会を支える「具体的で実効のある食環境整備」を目標に据え、給食、中食・外食を対象とした当分野の研究と実践活動を行ってきました。現在は、厚生労働省の「健康な食事」推進事業である「スマートミール認証制度」の立ち上げや、地域課題である有害鳥獣の食資源化等にも力を入れています。全国を見渡せば、管理栄養士養成課程を設置した公立大学が続々と新設されていますが、研究マインドを持ち、問題解決力を備えた専門家が卒立っているのが本学の特徴だと確信しています。学生の栄養専門職としてのコンピテンシー（実務能力）を育てるることはもちろん、実務をこなすだけではなく、各分野の教育・研究で得た知識を応用し、問題点の発掘と解決ができる人材育成を目指して、今後も教育・研究活動に邁進したいと考えております。

栗木 清典 (教授:公衆衛生学研究室)



2009年4月1日に准教授として着任し、2018年4月1日に教授職を拝命しました。この間、公衆衛生学や統計学に関する教育、そして栄養疫学の教育と研究に従事して参りました。研究では、栄養系の大学として唯一、文部科学省科学研究費 新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」の助成による『日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study)』に参画しています。このJ-MICC Studyは、2025年まで参加者の健康状況を追跡調査し、2035年までデータ解析することで、全国研究ではゲノム医療・予防について、静岡・桜ヶ丘地区的独自研究 (<http://www.jmicc.com/feature/feature01-12/>) では静岡県民の健康の維持増進について科学的エビデンスを蓄積しております。本学部・大学院のさらなる発展に貢献して参りますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任教員の紹介(平成29年7月～平成30年4月着任)

田村 謙太郎 (准教授:環境生理学研究室)



創星会の皆さま、初めまして。平成30年4月1日付けで環境生理学研究室の准教授に着任いたしました。私は今まで一貫して、高等植物を対象とした環境応答能を分子細胞生物学的な手法を用いて研究してまいりました。我々ヒトを含めた動物は植物の存在なしに生きることはできません。従って、彼ら植物の営みをよりよく理解することは持続可能な人類社会の構築に必須です。

環境生理学研究室においては、これまでの研究材料に加えて静岡の地域資源を活用したテーマ展開を目指しています。生まれも育ちも関西の自分にとって、静岡と言えば富士山、お茶、ちびまる子ちゃんといったワードしかこれまで出来てきませんでした。今後は、静岡の新しい魅力と食品栄養科学部が持つ学際性に出会えることを楽しみにして教育研究活動を推進していきたいと考えています。末筆ではございますが、今後とも末永いお付き合いのほど、よろしくお願ひ申し上げます。

小牧 裕佳子 (助教:光環境生命科学研究室)



平成29年7月1日付で光環境生命科学研究室の助教に着任いたしました小牧裕佳子と申します。私は米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校にて学位を取得後、イリノイ大学、スタンフォード大学にて研究員をしておりました。これまで水道水分野に毒性学の観点から貢献することを目指し、哺乳培養細胞を用いた消毒副生成物の毒性評価に関わって参りました。静岡県立大学においてはヒストン修飾変化に注目し消毒副生成物の毒性機構のさらなる解明を進め、人の生活の基盤をなす水道水の安全性の確保に貢献していきたいと考えております。また、教育・研究指導を通じて科学的・論理的思考を持った人材の育成の一助になればと考えております。若輩者ではございますが、創星会の皆様にはご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

大槻 尚子 (助教:フードマネジメント研究室)



平成30年4月1日付でフードマネジメント研究室の助教に着任いたしました大槻尚子と申します。私は本学の修士課程を修了後、食品会社における開発研究や学校栄養士の経験を活かし、いくつかの大学(管理栄養士養成課程)において給食経営管理分野の非常勤講師をして参りました。ご縁あって、母校においてフードマネジメント分野の教育および研究に着手できることとなり、大変光栄に感じております。

現在は再加熱までを含めたクックチルの研究に取り組んでおり、様々な食産業において利用できるシステムを構築したいと考えております。フードマネジメント分野は非常に現場に近い教育および研究です。今後は市川教授とともに現場の環境改善に繋がるような研究を行っていき、自らの考えをもとに社会に貢献できる人材の育成に励んでいきたいと考えております。

教育、研究とともにまだまだ未熟ではありますが、精一杯努めていく所存です。創星会の皆様には、ご指導・ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

川上 由香 (助教:臨床栄養管理学研究室)



平成30年4月1日付で臨床栄養管理学研究室の助教に着任いたしました川上由香と申します。私は平成23年に徳島大学大学院の博士前期課程修了後、徳島県鳴門病院で勤務し、一年後に社会人大学院生として博士後期課程に進学、平成27年に博士(栄養学)を取得いたしました。臨床現場で患者と接する中で、栄養管理が治療に貢献すること、入院生活の中での楽しみを食事が担っていることを直に感じました。同時に、様々な疾患に対する栄養管理に関するエビデンスの不足も実感しました。これまでの経験を活かし、本学において、基礎研究・臨床研究を通じた臨床現場での栄養管理に役立てる研究や、より臨床現場を意識した実践力を身につけた人材の育成に取り組んでいきたいと考えております。研究、教育ともに未熟ではありますが、本学の発展に貢献できるよう精一杯努めて参ります。創星会の皆様には、御指導御鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

繁田 堯 (助教:食品有機化学研究室)



平成30年4月1日付けで食品有機化学研究室の助教に着任しました繁田堯と申します。私は静岡県立大学を卒業後、京都大学化学研究所において博士号を取得致しました。修了後は米国に留学、その後助教として武庫川女子大学で勤務致しましたが、今回ご縁があり母校に帰ることができました。これまで有機化学の反応開発研究と、生理活性物質の全合成研究に携わっています。

食品の「味」や「におい」、さらに健康増進に関わる「成分」も分子であり、有機化学ではその分子を作り出す方法が学べます。また生命現象のメカニズムをミクロな視点から理解する際に活用出来る面白い学問です。学生の皆さんには食品と有機化学の繋がりを学び、将来は広い視野を持つ人材として食品分野に関わって頂けたらと思います。若輩者ではございますが、創星会の皆様にはご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

寺田 祐子 (助教:食品化学研究室)



平成30年4月1日付で助教に着任しました寺田祐子と申します。私は本学食品栄養科学部食品学科を卒業後、大学院食品栄養科学専攻へと進学し、平成27年に博士号（食品栄養科学）を取得しました。これまでに博士課程在学時のミシガン州立大学への留学、久留米大学分子生命科学研究所 助教などを経て研究・教育の経験を積み、母校に戻って参りました。

学生のときは本学にて、抗肥満・鎮痛を目的とし、温度感受性TRPチャネルに対する天然リガンドの探索を行いました。久留米大学では分裂酵母を真核細胞のモデルとして、糖輸送体発現制御の分子機構を研究しました。現在は伊藤圭祐准教授のご指導のもと、食品のおいしさ（味、香り）に重要な化合物と作用標的の特定、さらにはそれら食品成分の味覚・嗅覚受容体を介した生理活性機能について研究しています。母校の教育・研究に貢献、恩返しができるよう励みます。創星会の皆様にはご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

本田 沙理 (助教:食品分析化学研究室)



平成30年度4月1日付で食品分析化学研究室の助教に着任いたしました、本田沙理と申します。私は大阪市立大学大学院において平成30年3月に博士を所得し、今回ご縁がありまして、4月より静岡県立大学に赴任いたしました。私は有機・分析化学的手法を用いて、食品の機能を明らかにする研究を主に行って参りました。長寿化に伴い、生活習慣病などが問題になってきた現代において、日々摂取する食品の機能を明らかにすることは、非常に重要であると考えています。今後も、食品の機能に科学的根拠を与えることで、人のQOL向上を目指し研究を進めていく予定です。また、そのような研究を通じて、食品科学に関する専門的知識を身につけた学生の教育に貢献していきたいと考えております。若輩者ではございますが、創星会の皆様にはご指導・ご鞭撻賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

王 齊 (特任助教:大気環境研究室)



平成29年7月1日付で大気環境研究室の特任助教に着任しました王 齊（ワン チー）と申します。出身は中国河南省です。私は留学生として来日した後、本学の薬食生命科学総合学府において博士前期・後期課程を修了し、平成29年3月に博士学位を取得しました。その後、出身研究室で研究を続けて行っています。

これまでに、主に廃棄物焼却処理により非意図的に副生成した、ハロゲン化多環芳香族炭化水素類という有害化学物質群の生成・排出機構、環境挙動および対策方法に関する研究を行ってきました。将来については、優秀な研究者だけではなく、教育者も目指しています。そのため、現在、研究しながら研究室の後輩たちの指導も行っており、今後、少しでも母校の益々の発展に貢献できるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。創星会の皆様には、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

遠山 早紀 (特任助教:生態発生遺伝学研究室)



平成30年4月1日付で薬食生命科学総合学府食品栄養環境科学研究院の生態発生遺伝学研究室の特任助教に着任いたしました遠山早紀と申します。私は静岡県立大学環境科学科において平成28年3月に博士（環境）を取得し、学位取得後、基礎生物学研究所、横浜市立大学にて博士研究員として研究を続けてまいりました。私は魚類の生殖や性決定・性分化に関して、環境から受ける影響を加味し発生生物学、内分泌学、環境生物学、分子生物学の見地から研究を行なっています。人とのつながりを大切にし、充実した研究生活を送っていきたいと思います。若輩者ではございますが、創星会の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

異動・退職された教員

熊谷 裕通 教授：H30年 3月退職 → H30年4月～診療所勤務（非常勤医師）

真塩麻彩実 助教：H29年10月退職 → H29年11月～金沢大学理工研究域物質化学系 助教

関川 貴寛 助教：H29年12月退職 → H30年 1月～BGG Japan 株式会社



会計中間報告

(平成30年8月1日現在) 会計 大石 里夏

| 年月日 | 項目 | 収入 | 支出 | 残高 |
|-----------|-----------------------------------|-----------|---------|------------|
| | 繰越 | | | 11,436,158 |
| H29. 8. 4 | アルバイト代 (H29.7×1名) | | 18,270 | 11,417,888 |
| H29. 9.12 | はばたき寄金へ寄付 | | 20,000 | 11,397,888 |
| H29. 9.20 | コピー用紙、セロテープ | | 3,432 | 11,394,456 |
| H29. 9.25 | 郵送料 (会報誌送料) | | 242,620 | 11,151,836 |
| H29. 9.29 | 佐野先生退職記念花束代 | | 5,000 | 11,146,836 |
| H29.10. 1 | 利子 (H29.10.1) | | 20 | 11,146,856 |
| H29.10. 4 | 会報・封筒印刷費 (東洋プロセス、振込手数料込) | | 211,140 | 10,935,716 |
| H29.10. 4 | はがき交換手数料及び切手代 | | 676 | 10,935,040 |
| H29.10.10 | アルバイト代 (H29.8～H29.9×1名) | | 64,380 | 10,870,660 |
| H29.10.27 | 真塩先生退職記念花束代 | | 5,000 | 10,865,660 |
| H29.11. 1 | 学部生入学時同窓会費 (H29年度秋入学生) | 29,856 | | 10,895,516 |
| H29.11.10 | アルバイト代 (H29.10×2名) | | 18,490 | 10,877,026 |
| H29.12.22 | 関川先生退職お餞別代 | | 5,000 | 10,872,026 |
| H30. 1.30 | 熊谷先生退職記念品代 | | 11,660 | 10,860,366 |
| H30. 2. 9 | 創星会用卒業アルバム代 | | 11,124 | 10,849,242 |
| H30. 2. 9 | 卒業アルバム補助金 (5000円×83名) | | 415,000 | 10,434,242 |
| H30. 2.16 | 熊谷先生退職記念花束代 | | 5,000 | 10,429,242 |
| H30. 4. 4 | アルバイト代 (H30.1～H30.3×1名) | | 6,960 | 10,422,282 |
| H30. 4. 1 | 利子 (H30.4.1) | | 20 | 10,422,302 |
| H30. 5.18 | H30年度学部生入学時同窓会費 | 2,519,856 | | 12,942,158 |
| H30. 5.24 | ホームページ月管理費 (H30.6～H31.5) (振込手数料込) | | 18,816 | 12,923,342 |
| H30. 6.20 | ラベルシール | | 3,628 | 12,919,714 |
| H30. 7. 2 | アルバイト代 (H30.4～H30.6×1名) | | 46,428 | 12,873,286 |

創星会会員交流支援を始めます

卒業生・修了生同士の集まりを支援します!

創星会では、卒業生相互の交流を促進・活発化することを目的として、会員同士による集まりを支援致します。

詳細に関しましては、同封の【創星会会員交流支援事業参加規程】をご覧いただき、卒業生・修了生同士の交流を改めて深めるきっかけとして、是非ご活用ください。

●支援内容：卒業生の参加者14名までは一人につき3千円を補助し、15名以上の参加者については一人につき5千円を補助致します。

●支援条件：①卒業生が10名以上参加すること(研究室の同門会は支援しない)。
 ②主催者(幹事)が規程内容を理解し、全責任を負う。実施後は、同窓会報誌への報告記事掲載と次回総会での実施報告に協力する。
 ③交流会の開催2ヶ月前までに申請する(年間10団体まで、先着順)。

上記①～③の条件の他、詳細は支援事業参加規程をご確認下さい。

皆様のご応募をお待ちしております。



《創星会役員》

平成30年度より新体制となりました創星会の運営に携わっている役員を紹介します。

創星会へのご意見、ご要望などございましたら、ホームページよりお問い合わせメールをご利用下さい。

【会長】林 久由(1期生)

【副会長】三好 規之(M9期生)

【副会長】伊藤 圭祐(M13期生)

【幹事】大槻 尚子(M11期生)

【幹事】石塚 典子(14期生)

【幹事】吉田 卓矢(M16期生)

【幹事】本間 一江(M16期生)

【幹事】大原 裕也(19期生)

【幹事】寺田 祐子(20期生)

【会計】大石 里夏(6期生)

【会計監査(兼任)】伊藤 圭祐